

第 25 回 白神山地世界遺産地域科学委員会 議事概要

開会挨拶
林野庁 箕輪 東北森林管理局長 <ul style="list-style-type: none">・この科学委員会は、白神山地世界遺産地域連絡会議の助言機関として、世界遺産地域の保全管理について、科学的な見地からご助言をいただいている。・保全管理やモニタリング調査の実施状況、次回のモニタリング計画に向けてなど、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたい。
林野庁 三ヶ田 自然遺産保全調整官 <ul style="list-style-type: none">・配布資料の確認、委員紹介
委員長・副委員長選出
林野庁 三ヶ田 自然遺産保全調整官 <ul style="list-style-type: none">・事務局案だが、委員長は前任の中静委員、副委員長は前任より推薦された石田委員にお願いしたい。
中静 委員長 <ul style="list-style-type: none">・白神は一昨年 30 周年ということで、ユネスコからは日本の世界自然遺産の中で唯一、管理状態がグッドだと言われている。・しかし、クマやシカの問題が難しくなっており、ナラ枯れも深刻な状態になっている。・林道のアクセスの問題もあり、懸案事項が増えているので、しっかりやっていただきたい。
石田 副委員長 <ul style="list-style-type: none">・新任で副委員長を仰せつかり大変恐縮だが、よろしく申し上げます。
(1) 保全管理について 説明
資料 1-1 白神山地世界遺産地域及び周辺部における令和 6 年度事業実績、令和 7 年度事業計画・実績（暫定）【各機関】
資料 1-2 令和 7 年度白神山地世界遺産地域及び周辺部に係るイベント一覧【各機関】
由井 委員 <ul style="list-style-type: none">・白神山地周辺のイベント一覧に国土交通省関係のイベントは入っていないのか？・国土交通省が津軽ダムのライトアップをやっているが、ダム湖に来る観光客を津軽峠くらいまで招致できれば、いろいろ散策してもらえと思う。国土交通省は本会議には関係ないのか？
林野庁 林 自然遺産保全調整官 <ul style="list-style-type: none">・連絡会議の構成機関に国土交通省は入っていないため、関連するイベントも掲載していない。
中静 委員長 <ul style="list-style-type: none">・世界遺産の管理はもともと環境省と林野庁でやっていたが、さまざまな行事が環白神で計画されていることもあるので、必要であればオブザーバーなどから始めて、国土交通省に声を掛けることを検討してもいいかもしれない。
(2) モニタリング計画に基づく調査の実施状況について 説明
資料 2-1 令和 6、7 年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施結果（カルテ）【各機関】
資料 2-2 令和 7 年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施計画・実績（暫定）【各機関】
■ 助言を得たい事項について 説明
資料 8-1 櫛石山気象観測施設の継続について
由井 委員 <ul style="list-style-type: none">・秋田県では、山の下の方にあるコナラは 50 年生くらいで、豊凶の年次差があまり無く、多く実がなっていることから、山の上の方でブナやミズナラが不作でも、下の方にシカが来るようになるのではないかと懸念している。そのため、ナラ類の豊凶のデータをしっかり取る必要がある。・秋田県でデータが溜まっているということだったので、借用するか、県内部でお願いするなどして、経年変化のデータを出していただければと思う。
秋田県自然保護課 長岐 専門員 <ul style="list-style-type: none">・秋田県では、種子トラップと目視観察によるデータを取っている。・種子トラップは、全県でブナとミズナラ各 5 箇所ずつに設置していたが、ミズナラはほとんどナラ枯れでやられてしまい、ブナの方しか取れていない。・目視観察は、全県でブナ、ミズナラ、コナラ合わせて 20 箇所ほどを継続しているが、データの取りまとめは行っていない。そのようなデータで良ければ、出すことは可能である。

由井 委員

- ・とりあえず白神に近い所のデータだけでいいと思うが、全県のデータがあればそれも解析した方が良い。
- ・2010年くらいから真夏日が増えている（P26）ことと、高い山にあるブナの異常な結実の推移は、素人なりに何か関連しているのではないかと思うので、早く専門家に解析してもらいたい。
- ・地球温暖化がブナの個体に及ぼす影響を明らかにすることで、白神のブナの管理にもつながる。100年を見据えるなら、もしブナが枯れてしまったとき他にどのような樹種が代替となるか、そのように考えることも必要である。

中静 委員長

- ・ブナは、夏の気温よりも前年の花芽ができる時期の気温や天気が影響すると言われている。そのため最新の研究では、最高気温というより6月、7月くらいの天候が影響すると言われている。
- ・モニタリング計画見直しの時期でもあるので、県や森林管理局が持っているデータなど、どこまでを世界遺産のモニタリングに含めるかということも議論していただきたい。

木村 委員

- ・ニホンジカ対策の植生調査の結果（P13）について、あまりシカがいなさそうな水沢川の調査地点で、食害強度が比較的高い2となっているが、カモシカの可能性はないのか？

環境省 齋藤 総括自然保護官

- ・その可能性もある。

木村 委員

- ・垂直の植生モニタリング調査（P21）について、ブナの倒木があったという割には高木層の高さや植被率があまり変化していないのはなぜか？回復したとか、倒木自体がそれほど大規模なものではなかったとか、現地を見た感想があれば教えていただきたい。

林野庁 林 自然遺産保全調整官

- ・現地を見ていないので回答は難しいが、No. 56は写真で確認したところ、平成30年以降に倒木したことは確実である。それ以外は、データをみたところ、おそらく調査以前には既に倒木していた可能性がある。

由井 委員

- ・シカの咆哮調査で録音した音声からクマゲラの声を拾えるか？

環境省 齋藤 総括自然保護官

- ・すべての音が録音されているので拾うことは可能だが、サンプルとなるクマゲラの声のデータがないと抽出はできない。

由井 委員

- ・ハクビシンが木に登ってクマゲラの巣穴に入り、クマゲラをやっつける可能性がある。
- ・最近青森県側でクマゲラがほぼ確認されていないが、岩手県や北海道では確認されており、渡ってきて繁殖する可能性もある。クマゲラは古い巣でも使うので、ハクビシンが侵入しそうな古い巣がある場合は、木に登れない対策を施すのが良い。

中尾 委員

- ・ハイマツ群落におけるマツノクロホシハバチの生息調査（P44・45）について、これまでに大きな影響や被害は出ていないという認識で良いか？

林野庁 林 自然遺産保全調整官

- ・その認識で差し支えない。令和5・6年度ともに全く見つかっていなかったが、今年度は非常に珍しく見つかったものである。

中尾 委員

- ・楡石山の気象観測について、可能な限り継続した方が良いが、林道が崩れてメンテナンスが難しい場合は、もう少し簡易的な機器での計測に切り替えるという判断が必要だと思う。
- ・ただし、データの連続性を担保するため、これまで継続してきた機器と新たに使用する機器で、観測期間をオーバーラップさせ、各機器の観測の傾向を整理したうえで切り替えた方が良い。

中静 委員長

- ・短くても1~2年くらいオーバーラップさせることが重要かと思う。これは来年度以降のモニタリング計画時にまた話題にしたい。

小岩 委員

- ・現在の場所に楡石山と二ツ森の観測施設を設置した理由は何かあるのか？

- ・長期間観測してきて、2 地点の気象データに類似の傾向がみられるなど、どちらか一方でも代表的なデータが取れそうか伺いたい。

環境省 齋藤 総括自然保護官

- ・正確には分からないが、おそらく核心地域と周辺地域に 1 箇所ずつということで設置されたと思う。周辺地域は秋田県側の二ツ森で、核心地域は奥赤石川林道があり、当時はアクセスが容易だった櫛石山が選定されたのではないかと。
- ・今年度、これまでの気象データについての解析業務を行っているので、その結果を見て類似の点が見られるかどうか判断したい。

中静 委員長

- ・おそらく、核心地域で観測が全く無いのはまずいという判断だったことと思う。アメダスの山岳地域の観測点を増やすという計画もあると聞いているので、うまく利用できれば良いが、いずれにしても核心地域へのアクセスが難しい状況だと、今後、考えなければならない事項は出てくると思う。

木村 委員

- ・モニタリング事業だけではなく、パトロールなどを行ううえでもアクセスできる林道はかなり重要だと感じた。この崩落している林道は、どこが管理しているのか？今後の修繕のスケジュールなど目処が立っているのか伺いたい。

林野庁 林 自然遺産保全調整官

- ・資料 7 で詳細を説明させていただきたい。

由井 委員

- ・気象が似ていればいいような気もするが、資料 7-1-②の地図にある駐車帯の位置で観測するのは、核心地域ではないからダメなのか？

中静 委員長

- ・おそらく一番違うのは積雪で、標高だけでなく地形でも大きく変わる。2 観測地点間で似ているかどうかの比較はできるが、科学的に判断するには観測地点数が限られているため難しい。
- ・今回の報告を聞く限りでは、近年の高温化傾向はかなりはっきりしてきたが、植物にはまだ明らかな影響が出ているとは言えないという印象である。
- ・シカについても、カメラトラップや咆哮調査で捉えられる数は少しずつ増えているが、植物に対する影響はまだ顕著ではないという判断かと思う。しかし、いずれそれが顕著な影響として現れるのは予想しておかなければならないので、それを次期モニタリング計画でどうするか、ぜひ考えていただきたい。
- ・今後も今までどおりのアクセスが難しくなる可能性があると思うので、ドローンを使った計画など、いろんな方法を含めて考えていかなければならない。咆哮調査などは、まとまったデータになってきたので、やっていただいて本当に良かったと思う。

田口 委員

- ・今回のデータを見る限りでは、白神のクマは山の上の方と下の方で、大きく移動はしていないようである。クマの上下的な移動を正確に把握できるかどうかもある必要がある。
- ・秋田市役所と秋田県副知事の話では、クマが街の周辺に定着してしまっている可能性が出てきている。山中にクマを留められなくなってきているのか、街の方に良質な餌があるため増殖した個体がどんどん下に降りてきているのか、あるいはもう下で繁殖が始まっているのかを見極めなければ、対策の打ちようがない。
- ・今は対処療法として捕殺して終わっているが、それ以外の手を考えなければ問題は解決しない。
- ・白神山地にはこれだけデータが蓄積されているということで、そこからどんなことを読み取れるのかを考える必要がある。

中静 委員長

- ・モニタリングとしては期待した結果や成果が出ているとは思いますが、これをこれからの管理にどのように活かすか、後ほど考えていただければと思う。

休憩

(3) ニホンジカへの対応について 説明

資料 3-1 令和 6 年度におけるニホンジカの生息状況【地域連絡会議（東北地方環境事務所 整理）】

資料 3-2 ニホンジカ対策令和 6 年度事業結果、令和 7 年度事業計画・実績（暫定）【各機関】

石田 委員

- ・ニホンジカの生息状況 (P1) について、昨年は積雪量が少なかったと資料 2 にあったが、それに

よってニホンジカが越冬しやすく、春先に観察される個体数や目撃数が増えたなど、例年と異なる傾向はみられたか？

環境省 齋藤 総括自然保護官

- ・積雪とシカの出現の関連性については特にまだ見つかっていない。

石田 委員

- ・雪が少ない年だからといって、必ずしも目撃数が多いかどうかというのは、まだ確認されていないということか？

環境省 齋藤 総括自然保護官

- ・シカの密度自体がそれほど高くないので、積雪との関連がはっきり分かるほどの成果は出ていない。

高橋 委員

- ・ここ数年で、咆哮調査やカメラトラップによるシカの記録数は急増している。植生にはまだ顕著な影響が出ていないという報告だったが、猶予はなくなってきている段階だと捉えた方がいい。
- ・捕獲候補地になるということで、今春、国有林内でシカの越冬地調査を行ったが、1年のうち1～2日、決め打ちで行っても発見は難しい。
- ・国有林内でも、具体的に捕獲事業を行っているところもあると思うが、結局戦力は猟友会であり、県や市町村が実施している有害捕獲や指定管理鳥獣捕獲も担っている。クマ対応が大きな負担となっている今、白神だけでなく日本各地で問題となっているが、シカやイノシシを退治するための捕獲努力量が圧倒的に足りていないという状況である。
- ・モニタリングで何か検出されたときに、具体的に何ができるのかを考え、試していくという時期に来ている。
- ・シカ対策では、圧倒的に労力が足りていないことが問題である。
- ・猟友会のハンターは本業を他にお持ちなので、クマと比べて緊急性の低いシカへの対応は遅れてしまうことがある。そのため現場では、専従できる体制を取れるかどうかが重要だと感じている。

中静 委員長

- ・農作物はかなり被害が出ていると聞いているが、農地の周囲の柵の設置はどのくらい進んでいるのか？

秋田県自然保護課 長岐 専門員

- ・秋田県では、シカは確実に年々増えているが、まだ密度が低いので、農作物被害に対しての電気柵はむしろクマや、シカよりも増えているイノシシへの対策として行っている。シカ対策として電気柵を設けている市町村は今のところ無い。

中静 委員長

- ・畑や田んぼの周りがすべて柵で囲われると、食べ物が山の中にしか無く、森林への被害がさらに大きくなるのではないかと心配はしている。
- ・このモニタリングだけではなく、実効あるやり方を考えなければ制御が難しいというところまで来ていると思う。

由井 委員

- ・クマが多い所は、シカのカメラカウント数がおおむね少ない気がする。田口先生にお聞きするが、クマがシカを襲うことはあるか？また、クマでシカを制御することができるか？

田口 委員

- ・クマがシカを食べることはあるが、頻繁にあるものではない。狙われるのは弱った仔ジカや、有刺鉄線、くくり罠などに引っかかってしまったシカである。
- ・この調査方法以外に、個体群の密度計算ができる調査のやり方はないのか？

高橋 委員

- ・密度推定の方法は区画法やベイズ推定などいくつかあるが、真値からどの程度離れてるのは分からない。
- ・クマがシカを制御しているかどうかについて、北海道のルシャ川では、メスジカに対して仔ジカの数が少ないので、ヒグマが仔ジカを襲っている可能性があるということが論文になっていた気がする。

田口 委員

- ・北海道では、銃声がするとシカが獲られた合図となって、ヒグマが来ることがある。本州ではまだそこまでではないが、近いうちにそうなるかもしれない。動物たちは、人間がやることをよく

観察して適応するので、人間が行くところにシカがいると発想したっておかしくはない。

由井 委員

- ・クマがシカの味を覚えれば、山でも「シカがいた、獲物だ」と感じて追うかもしれない。

田口 委員

- ・そういう個体もいるかもしれないが、クマは個体差が大きいので、期待するのは難しい。やはり人間がどうにかしなければならない。
- ・今の鳥獣対策は、被害現場の周辺で動くだけで全体の動きを見てる人はいない。クマやシカ、イノシシにしろ、データを客観的に見て対策の手順を考えなければうまくはいかない。
- ・シカの問題は、被害が目に見えて出てきたときにはもう手遅れになっている。それで西日本からずっと失敗してきているので、客観的に森の中を調査できるシステムを作らなければならない。
- ・東日本は銃を使う猟師が多いのに対し、西日本は罠師が多くいる。西日本は照葉樹が多く、視界が利きにくいのだが、東日本でも西日本のようにコツコツ一頭ずつ獲っていく猟師を育てないと追いつかない。

高橋 委員

- ・西日本で銃が撃ちにくいのは、照葉樹の暗い森林では、シカ自体が小さい群れで分散しているという、シカの生態の理由もあるかと思う。
- ・人口減少、高齢化の中で限られた労力で対策するには、やはり革新的な何かを持ち込まなければならないと思う。

田口 委員

- ・シャープシューティングというのは、囲い罠の中にシカを誘引して、入ってきたシカをすべて捕殺する方法だが、国際的な風潮から、アニマルウェルフェアに反する可能性があるという意見もある。一時期はシャープシューティングという言葉聞いたが最近はあまり聞かなくなっている。
- ・北海道では、ベニヤ板を使った小さい囲い罠と、発酵させた牧草の誘引剤（餌）を併用しているが、かなりの確率でオスジカが獲れる。

高橋 委員

- ・秋田県の田沢湖では、同じ方法で試験していたが、シカの接触はあってもリピートが無いので罠の中まで誘引することができなかった。ほとんどの誘引剤（餌）がそうだと思うが、どこかで有効な方法は他にも必ず有効とは限らない。一方で、他所では効果が無かったが、うちでは効くかもしれないということで、何でも試してみるということが必要だと思う。
- ・青森県の深浦の辺りでは、雪の下に野菜を貯蔵しておくという風習がある。それが動物の餌になることもあるので、コストはかかるが、残渣なども含めしっかり管理した方がいい。
- ・シカはさまざまな植物を食べるが、餌の質が下がったときは増加率も下がるという報告もある。

中静 委員長

- ・科学委員会として決定打が無いところではあるが、技術的なものも含め、さまざまな方法を学んで、トライすることしかできないというのが現状だと思う。
- ・このままシカが増えることは、農作物やそれ以外にも良くない影響を及ぼすことが考えられるため、世界遺産だけでなく、農業分野などと協力しながらさまざまな方策を考えていただくようお願いしたい。

（４）入山利用への対応について 説明

資料 4-1 令和 6 年度白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数調査について（結果報告）【東北地方環境事務所】

資料 4-2 白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る取組みについて【地域連絡協議会】

資料 4-3 白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る令和 6 年度実施結果、令和 7 年度実施計画・実績（暫定）【各機関】

熊谷 委員

- ・入山数のモニタリングでの論点は、人の立ち入りによって、どのようなインパクトがあるのかという点だと思う。
- ・核心地域への立ち入りについて、ごく少数の声の大きい人と、あまり興味のない人が混在していると思うが、その中で協議の土俵がどれほど健全に設定されているのか疑問である。
- ・秋田県側で核心地域のあり方を検討するときに、上記の点についてエビデンスを示して、地域住民をどこまで説得できるか？多分に心情的なところが支配していると思うが、現場感覚を教えてください。

秋田県自然保護課 齋藤 調整・自然環境チームリーダー

- ・核心地域への入山について、認めるべきという意見がある一方、特に地元の声としては引き続き守っていききたいという意見もある。
- ・地域懇談会や協議会などで地元の声を吸い上げながら県の考えを示すことになるが、現状では地元からは核心地域への入山を積極的に進めたいという声は届いていない。

熊谷 委員

- ・環境省東北地方環境事務所の基本的な考え方はあるか？

環境省 櫻庭 国立公園課長

- ・明確なスタンスは決まっていない。
- ・強く反発する意見もあり、エビデンスを示して説得するためのストーリーを描けるかどうか、シビアな感覚ではある。
- ・議論の場には土台をしっかりと作らなければならないが、その方法もどうするのか、戦略が立てられていないのが正直なところである。

中静 委員長

- ・世界遺産地域周辺の利用はいろいろと進んできたと感じているが、核心地域ないし世界遺産地域内に入る人は、年間数百人ほどという状況である。
- ・核心地域、あるいは緩衝地域の中では、帰化植物がどの程度入っているか、登山者がルール違反をしていないか（木を伐っていないか、焚き火をしていないか等）などをモニタリングしていたが、大きな影響はあまりないというのがこれまでの結論である。
- ・今後、世界遺産としての価値を地域がどのように利用するかということに関しては、例えばガイドに大きな権限を持たせたり、教育的効果を持たせたりする方法が考えられる。また、今のよう届け出さえすれば誰でも入れるようにして、影響調査だけモニタリングするという方法もあり得る。
- ・白神という世界遺産を国や地域がどう利用するかしっかり議論しなければならないが、地域の中でも意見が割れていると思う。できるだけ前向きな方向に持っていくのが大事かと思うので、引き続き議論をお願いしたい。

中尾 委員

- ・白神山地が持つ生態系サービスの部分が地域経済に波及していくと思う。序盤の報告で、紅葉のタイミングが少しずれたという話があったが、それに関連した来訪者数の時期的な変化についての検討なども行ってもいいかもしれない。

中静 委員長

- ・白神ライン閉鎖の時期と紅葉期が重なると、中に入れなくなってしまうため入山者数に影響を及ぼす可能性はある。

(5) 松くい虫被害及びナラ枯れ被害について 説明

資料 5-1 松くい虫被害及びナラ枯れ被害の状況【青森県林政課、秋田県森林環境保全課、東北森林管理局】

由井 委員

- ・秋田の八峰町の中ノ又沢は遺産地域まではまだ相当距離があるのか？

林野庁 林 自然遺産保全調整官

- ・水平距離で4km くらい。

中静 委員長

- ・秋田県は令和 6 年度にマツ枯れ、ナラ枯れともに増えているが、令和 7 年の速報値も増えているのか？

林野庁 林 自然遺産保全調整官

- ・(秋田県森林環境保全課が欠席のため) 分かり兼ねます。

中静 委員長

- ・地形の激しい所や山奥はくん蒸にも行けないので、青森県が行っているように、保護地域や重要な林を重点的に保全するというのが、予算的にも人員的にも精一杯ではないかと思う。

中尾 委員

- ・世界遺産地域にはもうナラ枯れが入っているのか？

中静 委員長

- ・入ってはいるが、ナラ自体の本数が少ないので、全面に枯れるという事態はないだろうと思う。

由井 委員

- ・秋田の長岐さんによると、コナラは 50 年生過ぎても 3 割ぐらいしか枯れないとのことなので、ブナもミズナラも無くなって禿山になるよりは、コナラやクリの林にしてもいいのではないかと。

中静 委員長

- ・その辺はいろいろ議論があると思うが、縄文時代の頃は、標高の低い所はクリやコナラの林だったと言われているので、そういう林に戻っていくかもしれない。

(6) モニタリング成果の評価及びモニタリング計画の見直しについて 説明

資料 6-1 モニタリング成果の評価及びモニタリング計画の見直しについて【地域連絡会議】

資料 6-2 モニタリング成果の評価・モニタリング計画見直しの進め方 作業フロー (案)【地域連絡会議】

資料 6-3 評価指標ごとの担当委員 (案)【地域連絡会議】

資料 6-4 [概要シート参考事例] 令和 4 年 7 月改定時の資料より抜粋【地域連絡会議】

資料 6-5 白神山地世界遺産地域モニタリング調査 第 3 回評価【地域連絡会議】

資料 6-6 白神山地世界遺産地域モニタリング計画 (令和 4 年 7 月改訂)【地域連絡会議】

(7) その他 説明

資料 7-1 世界遺産モニタリングに関する要望【世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会】

中静 委員長

- ・この (林道崩落により調査地へのアクセスが困難なため、モニタリング内容を大幅に縮小・変更せざるを得ない) 状況を加味して、新しいモニタリング計画を考えていただきたい。
- ・5 年間の傾向をまとめるとあったが、過去のデータがある分をすべてまとめた方が良いのではないかと。その方がモニタリング計画を立てやすいと思う。
- ・モニタリング計画はブナ林の存続や野生生物など、いくつか項目を分けてあるが、それを縦串として、横串で例えばシカ問題の影響を見るための方法や、温暖化の影響を調査する方法、あるいはナラ枯れの影響などを分析した方がいい。
- ・シカはかなり広範囲でモニタリングしているし、ブナ林のモニタリングに関しても、世界遺産地域だけでなく、深浦町や藤里町のデータも非常に参考になるので、どのくらいの範囲でモニタリングを行うのがいいのか検討するべき。

由井 委員

- ・林道の復旧が早急に対応するべき事項だが、経費の問題はふるさと納税制度が活用できると思う。
- ・たとえば、早池峰山についても前から指摘しているが、オーバーユースの問題がある場合は周囲から眺めるだけでもいいのではないかと。
- ・乱岩ノ森トイレまでは現在行けないのか？

青森県自然保護課 白戸 開 主査

- ・担当部局に確認したところ、資料 7-1-①に記載している情報以外は公表できないが、10 月 1 日現在で、白神ライン全体の工事件数が 34 件あり、このうち 25 件が完了しているとのことだった。お尋ねの箇所まで行けるのか、どの箇所が工事中なのかは把握していない。

由井 委員

- ・遠くからでも向白神や白神岳が見える場所があるので、当面はそのような場所を整備するのが良いのではないかと。
- ・モニタリングのアクセスを確保するために、周辺の舗装道路を整備して来訪者から入山料を取り、その収益を道路復旧やモニタリングのための経費に充てればよいのではないかと。

林野庁 魚住 計画課長

- ・今後、モニタリング計画改定案を作成する際には、林道のアクセス状況や実行体制を踏まえた検討が必要になると思う。奥赤石川林道の崩落箇所は、雪解け後に現地確認を行い、復旧に向けて予算や期間がどの程度必要となるか確認したい。
- ・白神エリアに限らず東北管内多くのエリアで林道被害が発生しており、予算や工事業者のキャパシティもあるので、地域全体の災害対策や費用対効果などを勘案して、優先順位をつけて対応したい。

中静 委員長

- ・由井さんの意見のように、その場所に付加価値をつけ、それが林道使用の理由として妥当なものであれば、予算もつきやすいと思うので、もし何かアイデアがあれば出していただきたい。

熊谷 委員

- ・ IUCN の WCPA とある程度のコミュニケーションチャンネルを確認する必要があると思う。似たような気候関連の災害は世界中の世界遺産内でも発生しており、WCPA の中では弾力的な対応をするようにしている。
- ・ よく健康診断に例えられるが、OUV を測るときに、まず少ない項目でバイタルな部分を判断する。そこで問題があれば詳細な調査をするというような道筋があれば、弾力的な対応ができるはずなので、ここでの議論を整理しつつ、WCPA に働きかけて現実的な道を探るのが良いと思う。

中尾 委員

- ・ センシングでは空から見るのが一番効率的である。しかしドローンはあまり広範囲を撮影できないので、現状で一番正確に撮れるのは航空機の LiDAR である。
- ・ 正確な資源量や崩れる場所などを把握して、その後、例えば航空写真からセンシングしていくという方法で、面的な変化を捉えることができるのではないかと。

中静 委員長

- ・ 白神全体で LiDAR を飛ばしたことがあるので、そのデータを活かすことは重要である。新しい方法や、現在の方法でできなくなったときにどうするかを含め、次期モニタリング計画を提案していただきたい。
- ・ 核心地域でのモニタリングが無くなってしまうのは本当に問題だと思うので、それは何とかして確保していただきたい。
- ・ 資料 6-3 の担当委員の割り振りに異議が無ければ、このとおりでお願いしたい。

由井 委員

- ・ クマゲラやイヌワシは、ほとんどが（世界遺産地域の）周辺地域にいたので、次期モニタリング計画ではそこまで範囲に含めて良いか？

中静 委員長

- ・ 周辺地域まで対象範囲にしなければモニタリングとして意味が無いのなら、そのように提案していただいた方がよい。

(7) その他 説明

資料 7-2 令和 7 年度白神山地世界遺産地域の管理に関する懇談会 概要報告【地域連絡会議】

熊谷 委員

- ・ エコパークへの登録に関して、青森県は積極的に話を進めようとしているようだが、秋田県と情報共有は行っているのか？

青森県自然保護課 櫻田 課長

- ・ 青森県で積極的にエコパークの話を進める意向ではない。地元の自治体、市町村で基本的な枠組みを調整して、ある程度しっかりしたモデル地域となる取り組みが行われれば、そういうこともあり得る。まずはこの周辺地域をしっかり活用して、地域での白神の理解度を上げ、環境教育を進めることが大事だという考えである。

中静 委員長

- ・ この問題は自治体の苦勞が多いが、メリットも大きいと思う。構想をしっかり描くことが基本かと思うので、そのためのサポートは科学委員会でも大に行いたい。しばらくは議論を活発にしていっていただければと思う。

閉会挨拶

環境省 東岡 東北地方環境事務所長

- ・ 本日は長時間にわたり、熱心にご議論、ご意見いただき誠にありがとうございました。
- ・ 白神は、積極的に利用を推奨するタイプの世界遺産ではないとして管理が行われてきた経緯から、利用の仕方についてはまず地域の方の意見を踏まえ、管理側から何か方針を示すことは慎重に考えたい。
- ・ モニタリングデータが非常に多くあるので、クマがなぜ里に降りてくるのか、シカの低密度管理をどうするのかなどの課題に取り組む際、有効に使えるのではないかと重視している。
- ・ 地形的な要素から、秋田、山形あたりは温暖化の影響で線状降水帯が発生しやすい地域とシミュレーションされているので、水害リスクを考えながら、モニタリングのためのインフラをどう維持するか考えなければならない。